

令和 8 年度全国学力・学習状況調査 「中学校英語」 結果返却のポイント

目 次

- 1 IRTスコアをベースに示します
- 2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります
- 3 2 段階に分けて結果返却します



「中学校英語」 結果返却のポイント

(注)「中学校英語」以外の結果返却・公表は、従前と同様の形で行います。

1 IRTスコアをベースに示します

- ✓ 教科調査の結果は、従前、正答数・正答率をベースに示してきましたが、令和8年度「中学校英語」はIRTに基づくスコア（IRTスコア）とバンドで示します。
- ✓ IRTスコアを踏まえた経年変化については、次回以降の教科調査（中学校英語）の結果と一緒に示しする方向で検討します。



2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります

公開問題

- ✓ 従前、教科調査の結果返却時に提供していたデータに相当するデータを提供します。複数の公開問題について、IRTバンドを活用した分析も行う予定です。

非公開問題

- ✓ 個々の問題の内容や正誤は返却できませんが、全体の解答状況から分かる児童生徒の学習状況を可能な限りフィードバックします。

3 2段階に分けて結果返却します

- ✓ 生徒個人や学校・教育委員会への結果返却は、①7月に「話すこと」を除く英語3技能の結果、②秋頃に「話すこと」・英語4技能の結果、の2段階で返却します。
- ✓ 国による結果公表は、令和7年度と同様、3回に分けて実施し、7月当初から、4技能の全国値や分析結果を公表します。



IRTスコアをベースに示します ① IRTに基づく調査のイメージ -1

IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。
項目反応理論(Item Response Theory)。
異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。
※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



悉皆調査でIRTを導入するメリット







- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

<参考> 素点方式（正答数・正答率）、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ（難しさ）がAさんとBさんと異なっている。

	素点方式		IRT方式																																	
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環 (C) を見ることができたか		どの大きさのランドルト環 (C) を安定的に見ることができたか																																	
得点(スコア)の例	<table><tr><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td></tr></table>	0.1		0.2		0.3		0.4		<table><tr><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td></tr></table>	0.1		0.2		0.3		0.4		<table><tr><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td></tr></table>	0.1		0.2		0.3		0.4		<table><tr><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>0.3</td><td></td></tr><tr><td>0.4</td><td></td></tr></table>	0.1		0.2		0.3		0.4	
	0.1																																			
0.2																																				
0.3																																				
0.4																																				
0.1																																				
0.2																																				
0.3																																				
0.4																																				
0.1																																				
0.2																																				
0.3																																				
0.4																																				
0.1																																				
0.2																																				
0.3																																				
0.4																																				
	<div><div>5問/7問 (正答率71%)</div>Aさん</div>	>	<div><div>4問/7問 (正答率57%)</div>Bさん</div>	<div><div>0.2</div>Aさん</div>	<	<div><div>0.3</div>Bさん</div>																														

※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数（見ることができたランドルト環の数）・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなる。

代表的な実施方式の例・令和8年度調査の予定

令和8年度「中学校英語」は**分冊方式**で実施。

分冊方式

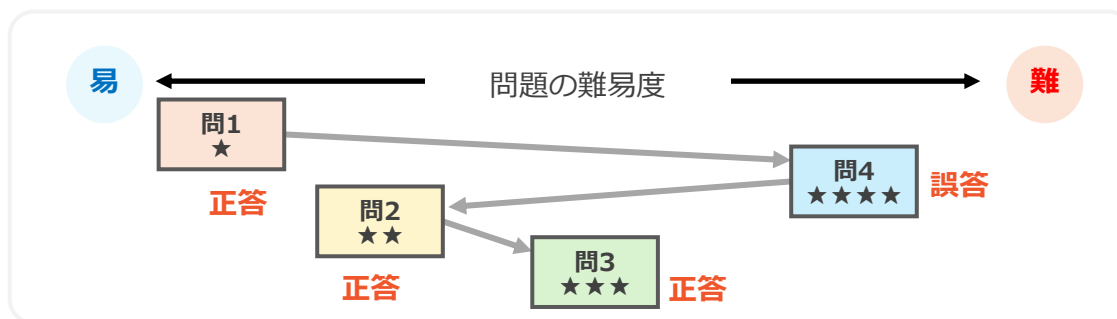
- 多数の小問群（ブロック）を複数の問題セットにあらかじめ割り付ける方式
- 調査が全て終了するまでは問題を公開できない

セットA	セットB	セットC	セットD	セットE	...
1	2	3	4	5	...
2	3	4	10	6	...
4	10	11	5	7	...
7	12	8	9	3	...

※ 表中の数字はブロックの番号を表している。

アダプティブ方式

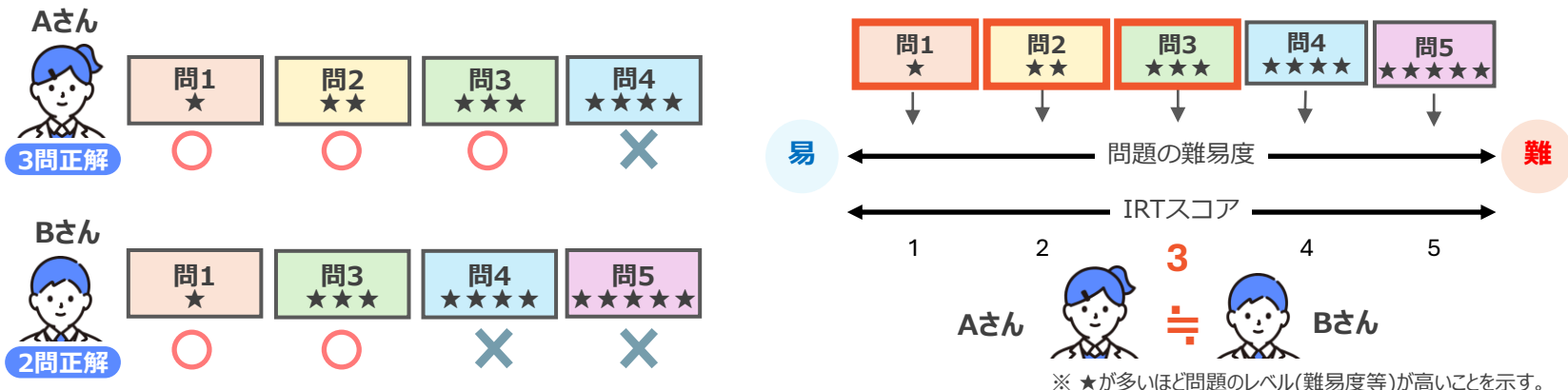
- 小問の正誤に応じて、次に出题する問題を変える方式



1 IRTスコアをベースに示します ① IRTに基づく調査のイメージ -3

個人の成績（スコア）の算出方法

各問題の難易度等を用いて、正誤パターンの状況から、受検者の能力値を推定。難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。IRTスコアは、推定された能力値を500を基準にした得点で表示。



測定・把握できるもの

素点方式

焦点化された学力の測定

- 問題セットが1つのみであり、調査により広範な学力の測定には限界がある。
- 学力層A～Dも、「焦点化された学力」に基づいて児童生徒を25%ずつに区切ったもの。

当該学年の児童生徒間の学力の把握が可能

- 各年度の問題の難易度が厳密に調整されていない限り、他の年度の正答率・学力層A～Dと単純に比較することは適当ではない。

IRT方式

幅広い学力の測定

- 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。調査により従来より広い学力を測定できる。
- IRTバンドも、「幅広い学力」に基づいて算出したもの。

複数年度間の学力の把握が可能

- 他の年度のスコア・IRTバンドを経年比較可能な設計とすることも考えられる。

1 IRTスコアをベースに示します ① IRTに基づく調査のイメージ -4

IRTスコア

- 問題の難易度、正誤パターンの状況等から推定し、**500を基準にした得点**で表示。
※ 理想的な正規分布の場合、平均500、標準偏差100となる。実際の各生徒のスコア状況により変動。
- 各教科にCBT・IRTを導入する年（中学校理科：R7、中学校英語：R8、国語、算数・数学：R9）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。

IRTバンド

- 細かな差異にとらわれすぎず、個別の生徒の課題把握と指導改善に生かしやすいよう、**IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの**。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。
※ 理想的な正規分布で標準偏差を用いて区切った場合、バンドとスコアの対応関係は以下になる。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～
割合(%)	7	23	40	23	7

参考：R7 中学校理科の結果

IRTスコア	平均	第3四分位	第2四分位	第1四分位	標準偏差
全国(国公私)	505	573.9	495.8	423.2	124.6

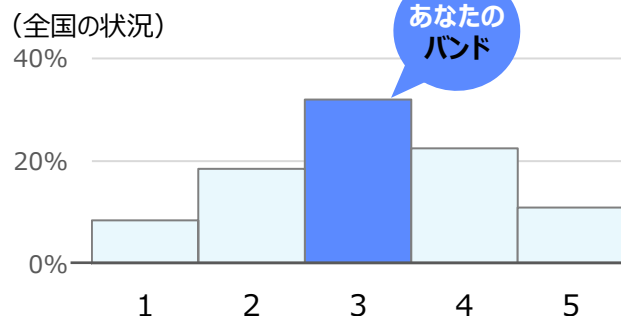
IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～317	318～442	443～567	568～691	692～
割合(%)	4.1	27.0	42.0	20.5	6.4

① IRTスコアをベースに示します ②「中学校英語」の結果の表示(イメージ)

令和8年度中学校英語調査では、以下の形で結果を示す予定。

個人の結果

- 生徒の「中学校英語」結果を5段階のIRTバンドで表示。
(標準バンドは3、最大バンドは5)



- 学校(自治体)の全生徒の5段階のIRTバンドの分布を表示。

IRTバンド	人数
1	*人
2	*人
3	*人
4	*人
5	*人

- IRTバンド5段階と対応付ける形で**問題の難易度を5段階で表示**。非公開問題も含めた正誤状況に基づいて分析し、事後的に付与したもの。
(例) IRTバンド3の生徒は、難易度3の問題を約80%の確率で正解する。

学校・市町村・都道府県教育委員会の結果

- 学校(自治体)ごとの「中学校英語」結果を、令和8年度調査の500を基準としたIRTスコアで表示。

	生徒数	IRTスコア
貴校	*人	505
全国(公立)	*人	500

- 2回目以降の調査では、学校・自治体の経年変化も示す。



R8	R11
500	507

(注) 実際の出題内容・解答状況によりバンド・スコア分布の傾向は変わる。

1 IRTスコアをベースに示します ③ IRTスコアを活用した分析(イメージ)

従前と同様、問題ごとの分析結果や授業改善のメッセージを発信します。
また、IRTバンドごとの解答状況(G-P分析図)により、「個に応じた指導」の授業づくりをサポートします。



全国学力・学習状況調査報告書

- 集計結果(解答状況等)
- 教科調査の各問題の分析結果と課題
- 指導改善のポイントと授業アイデア

複数の公開問題について、
IRTバンドを活用した分析を予定

令和7年度理科の分析例

※IRTバンド3に属する生徒では、「物質を記す原子や分子のモデルで表しているが、化学変化の前後で原子の種類や数が変化している」解答類型3と解答している割合が一定数みられる。

※具体的な授業場面

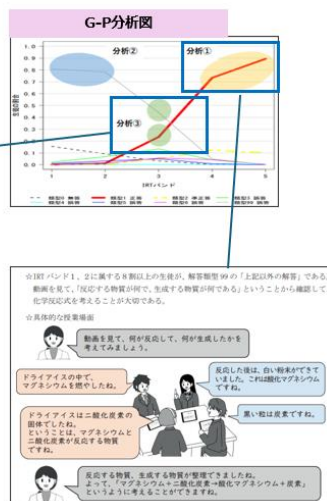
反応する物質、生成する物質が整理できました。
化学変化は、
マグネシウムと二酸化炭素→酸化マグネシウム+炭素
と考えることができますね。
原子と分子のモデルを用いて、化学変化を考えたときの注意点は
何だったでしょうか。

原子の種類と数を変える
といっていますね。

「化学変化の前後で、原子
の種類は変わらない」という
性質がありました。

それでは、確認した注意点を基に、タブレット
端末を使って、原子や分子を使って化学変化を
表してみましょう。

原子の種類や数が変化
しないことに注意して、
モデルを使って表して
みよう。



分析事例 (令和5年度調査)

令和5年度英語の結果については、追加分析において、
IRTバンドに相当する5段階の英語力層が活用された。

- バンド4・5 (高)
 - ✓ 「書くこと」より「話すこと」の無解答率が高い。
 - ✓ 言語活動(特に聞く・読む)の肯定的回答が多い。
- バンド3 (中)
 - ✓ 「書くこと」の正答率が低い。
 - ✓ 話す(発表)・書くに係る言語活動の肯定的回答が多い。
- バンド1・2 (低)
 - ✓ 「話すこと」より「書くこと」の無解答率が高い。

令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した
専門的な分析(国立大学法人横浜国立大学)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00010.html



④ IRTを用いた結果返却に関する動画・リーフレット

IRTに基づく結果提供に関するリーフレットや動画等を公開しています。
調査結果の分析や今後の学習指導に併せてご活用ください。

＜文部科学省HP：令和7年度の調査実施＞

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html

<QRコード>



IRT結果返却動画

IRTに基づく調査のイメージ

視力検査を例としたイメージ

イメージを簡単に表すために、ここでは視力と仮定し、目の左の7つのランドルト環の大きさ（難し）と右の4つを異なる大きさとする。

	検査方式（正答数・正答率）	IRT方式
得点（スコア） の表現方法	何個のランドルト環（C） を見るこができたか	どの大きさのランドルト環（C） を安定して見るこができたか
得点（スコア） の例	 Aizen 3/7問 (正答率71%) > Ben 4/7問 (正答率57%)	 0.2 < 0.1
検査方式	検査の場合は、Aさんの方が正答数（見るこができたランドルト環の数）・正答率が 高くなります。	IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア（視力）が高くなります。

「中学校理科」結果返却のポイント

- ① 学校(自治体)ごとの結果を、500を基準とするIRTスコアで表示します。

	生徒数	IRTスコア
貴校	*人	505
全国(公立)	*人	500

- ② 個人の結果は5段階のIRTバンドで表示・返却します。



※個人の結果を5段階のIRTバンドで表示・返却するのは、国際的な学力調査のバンド設定やIRT分析の精度も踏まえ、細かな差異にとられすぎることなく、個別の児童生徒の課題把握と指導改善に生かす趣旨です。

「調査結果の見方」リーフレット

中学校理科 調査結果の見方

今年度、中学校理科において1人1台端末を使用し、全国学力・学習状況調査が実施されました。他教科と同様調査結果の示し方が違うので説明します。この調査結果を見ながら、さらに力をつけていためのかみかりを見て頂いていきますよ。

理科(自然科学分野)・学習状況調査(理科)調査結果表

調査年度		調査年度	4	3	2	1
理科	3	3				
	3	3				
	3	3				
	3	3				

調査年度：調査年度は「1」「2」「3」のいずれか。年度は「1」「2」「3」のいずれか。年度は「1」「2」「3」のいずれか。

理科(自然科学分野)・学習状況調査(理科)調査結果表

調査年度		調査年度	4	3	2	1
理科	3	3				
	3	3				
	3	3				
	3	3				

調査年度：調査年度は「1」「2」「3」のいずれか。年度は「1」「2」「3」のいずれか。年度は「1」「2」「3」のいずれか。

[illegible]

2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります

① 提供データの違い

公開問題

児童生徒一人一人の学習指導の改善を主目的として出題

- 個人票では、個々の問題の内容や正誤等を返却します。
- 学校・市町村・都道府県教育委員会には、個々の問題の内容や正誤、解答類型等を返却します。

非公開問題

国や自治体等の状況を把握することを主目的として出題

- 個々の問題の内容や正誤、解答類型等は返却しません。
- しかし、非公開問題により、幅広い学力の測定や複数年度間の学力の把握が可能になります。
非公開問題を含めた全体の解答状況から分かる児童生徒の学習状況を可能な限りフィードバックします。



個人票

- 公開問題の内容や正誤等を掲載(非公開問題については掲載なし)

1	(1) ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○	80.5	2
	(2) 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	—	66.0	1



- 公開問題の内容、正答率、無解答率等を掲載(非公開問題については掲載なし)

問題別統計集表（公開問題）																								
問題番号	問題の概要	問題の難易度	学習指導要領の観点					学習の観点			技能の形式		正答率（％）		解題割合（％）		その他の 学習成果	対処生徒数						
			10 聞くこと 聞くこと	12 読むこと 読むこと	13 書くこと 書くこと	14 話すこと 話すこと	15 聞くこと 聞くこと	16 読むこと 読むこと	17 書くこと 書くこと	18 話すこと 話すこと	19 聞くこと 聞くこと	20 読むこと 読むこと	21 書くこと 書くこと	22 話すこと 話すこと	23 聞くこと 聞くこと	24 読むこと 読むこと		25 書くこと 書くこと	26 話すこと 話すこと	27 聞くこと 聞くこと	28 読むこと 読むこと	29 書くこと 書くこと	30 話すこと 話すこと	
111	ある状況を描写する英語を読み、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報も正確に聞き取ることができかどうかをみる	○												82.2	66.6	63.3	0.0	0.8	0.7	5	45	390	4,200
112	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報も正確に聞き取ることができかどうかをみる	○												66.4	24.9	21.9	0.2	30.3	30.8	6	45	390	4,200

- 学校
- 教育委員会

2 公開問題と非公開問題で提供データが異なります ② 令和8年度調査におけるMEXCBTへの公開問題の搭載

(注) ここで示すのは令和7年度調査における対応です。その後の対応は、技術の進展や調査研究の進捗等を踏まえて検討します。

令和8年度調査「中学校英語」では、生徒は、調査当日に公開問題の一部に取り組みます。解答しなかった問題を含む全ての公開問題について、調査終了後、生徒がMEXCBT上で取り組める環境を用意します。

調査当日

- 生徒が解答する調査問題には非公開問題が含まれます。
- このため、問題、生徒が解答した内容ともに全て回収することとします。解答提出後に、生徒や教師が問題や解答内容を確認することはできません。

非公開問題を含むため
問題、解答ともに回収します。



5月以降

- 公開問題のみのセット（調査本番で生徒が解いたものも解いていないものも含まれる）を5月以降、調査終了後に順次、MEXCBTに搭載する予定です。
- このセットを使って問題に取り組んだ場合は、解答後も生徒や教師が問題や解答内容を確認することができます。
- 調査後の振り返り、学習指導にご活用ください。

解答後も生徒や教師が問題や解答内容を確認
することができます。



3 2段階に分けて 結果返却します

英語結果返却・公表の内容とスケジュール

返却

生徒個人や学校・教育委員会への結果返却は、①7月に「話すこと」を除く英語3技能の結果、②秋頃に「話すこと」・英語4技能の結果、の2段階で返却します。

公表

国による結果公表は、令和7年度と同様、3段階で実施し、7月当初から、4技能の全国値や分析結果を公表します。

全体	返却		公表
	個人	学校・教育委員会	
7月中旬 ・学校返却① ・結果公表①	・公開問題(3技能分)の解答状況	・公開問題(3技能分)の解答状況 ・IRTスコア・バンド分布(3技能総合)	公表①:正答率・IRTバンド分布などの全国平均 ・公開問題(4技能分)の正答率【全国値】 ・IRTスコア平均・バンド分布(4技能総合)【全国値】 ※比較用の参考情報として、IRTスコア平均・バンド分布(3技能総合)【全国値】の公表も検討。
7月下旬 ・教委返却①		・公開問題(3技能分)の解答状況 ・IRTスコア・バンド分布(3技能総合)	
7月末 ・結果公表②			公表②: 全国データに基づく分析 ・IRTバンド(4技能総合)に基づくG-P分析図
秋頃目途 ・学校・教委返却② ・結果公表③	・公開問題(話すこと)の解答状況 ・IRTバンド(4技能総合)	・公開問題(話すこと)の解答状況 ・IRTスコア・バンド分布(4技能総合)	公表③: 都道府県別データに基づく分析 ・公開問題(4技能分)の解答状況 【都道府県・指定都市別】 ・IRTスコア平均・バンド分布(4技能総合) 【都道府県・指定都市別】

※具体的日程・内容については、実際の採点・集計の状況等を踏まえて決定予定。